

P l i a n

D o

S e e

子どもを好きになること

朝日町教育委員会

教育長 永 口 義 時

私は、職場へは徒歩か自転車で通勤している。朝の通勤の経路であるクラブハウスの近くですれ違う中学生がいる。既に学校のチャイムはなっているがあわてることなく私を避けるように顔も合わせないようにして通り過ぎていた。そのうちにこちらを向いてくれるようになり、顔を合わせるようになったので「おはよう」と声をかけてみたら小さい声で「おはようございます」とあいさつが返ってきた。最近すれ違うときは、はっきりとした声で「おはようございます」に笑顔も見えるようになってきている。後日聞いた話によると、この生徒は事情があり別室で始業と終業の時間をずらして授業を受けているとのことである。

平成 19 年に町教育センターが開催した朝日町小中学校教育講演会で園田学園女子大の野口克海先生に「元気が出る学校を目指して」と題して講演をしていただいた。大阪の荒れた中学校で、新任の先生とで 2 人のボスの存在の生徒を山奥の分校にこもって指導し、その生徒だけでなく学校全体を落ち着いた学校に変わらせたというその型破りな発想による指導に感銘を受けた。

その先生がこんなことを言っておられる。「先生方は子どもが好きですか。嫌いな子はいませんか。子どもは敏感で先生から好かれているか嫌われているか分かるんです。子どもは好きな人からでないと学ばないから、嫌いな子と先生の間には教育が成り立つ関係になりません。」と

出来が悪いといつて一から十まで叱りっぱなしの厳しい指導でなく、その内の一つでもその子の良い点を見つけて褒めてやれば、その子は先生に認められたということで教育が成り立つ関係を築くことができるということである。

また、野口先生はこんなことも言っておられる。「子どもは好きな人からしか学ばないが、好かれようと思ったら子どもへの迎合になるからダメ。先生が子どものいいところを見つけてこちらから子どもが好きになったら子どもはついてきてくれる。好かれようと思うな、好きになることだ。」と

いやな子、感じの悪い子といった観念を一度もつとなかなかその子を好きになれないのが人間の心情である。しかし、先生方は子どもを教え育てるプロフェッショナルとして、子ども達に寄り添いながら一人一人の長所を見つけ伸ばしてやっていただきたい。

先生という職業は、人が人を教えるというまさに人の人生を形成するための重大な任務を負っての仕事であり、そのために日々努力、研鑽されていることに感謝するとともに、時代とともに変わる教育環境に流されることなく子どもの可能性を最大限に引き出す指導法を常に考えながら、元気溘刺と教壇に立っていただくことを切望しています。

先に述べた生徒から、今朝も通勤途中で「おはようございます」とにこやかなあいさつが返ってきた。

